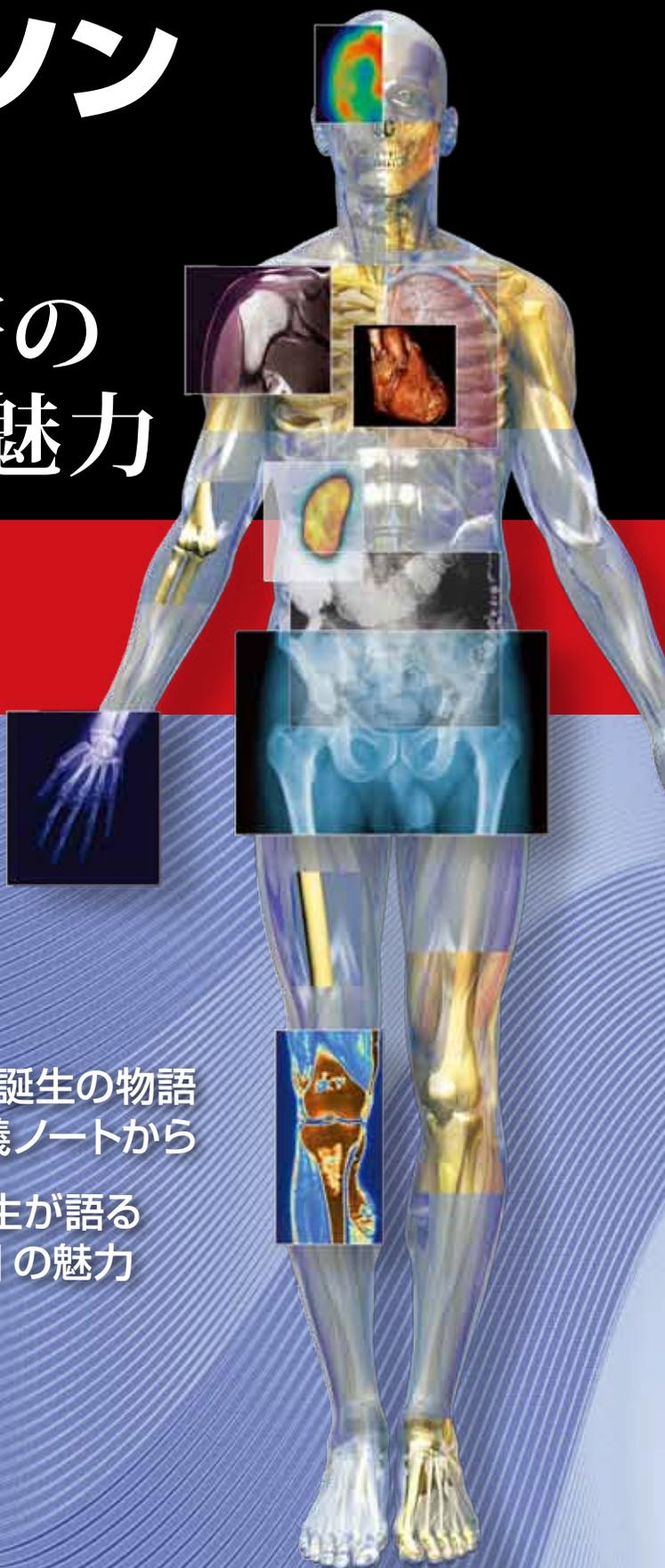


デビッドソン 内科学

原著
第21版

世界的名著の 知られざる魅力

Davidson's
Principles & Practice of
Medicine



デビッドソン内科学, 誕生の物語
—それは一冊の講義ノートから



監訳者・福井次矢先生が語る
『デビッドソン内科学』の魅力

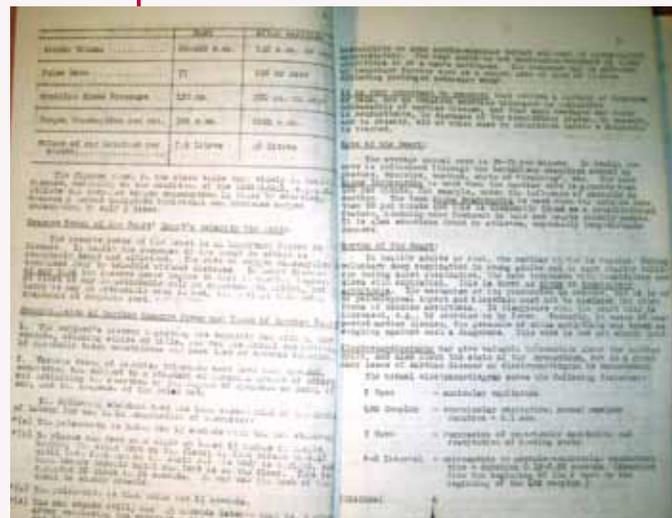
医歯薬出版株式会社

デビッドソン内科学、誕生の物語

それは一冊の講義ノートから



スタンレー・デビッドソン卿
Sir Stanley Davidson / 1894-1981



デビッドソン博士の講義ノート。世界的名著はここから誕生した

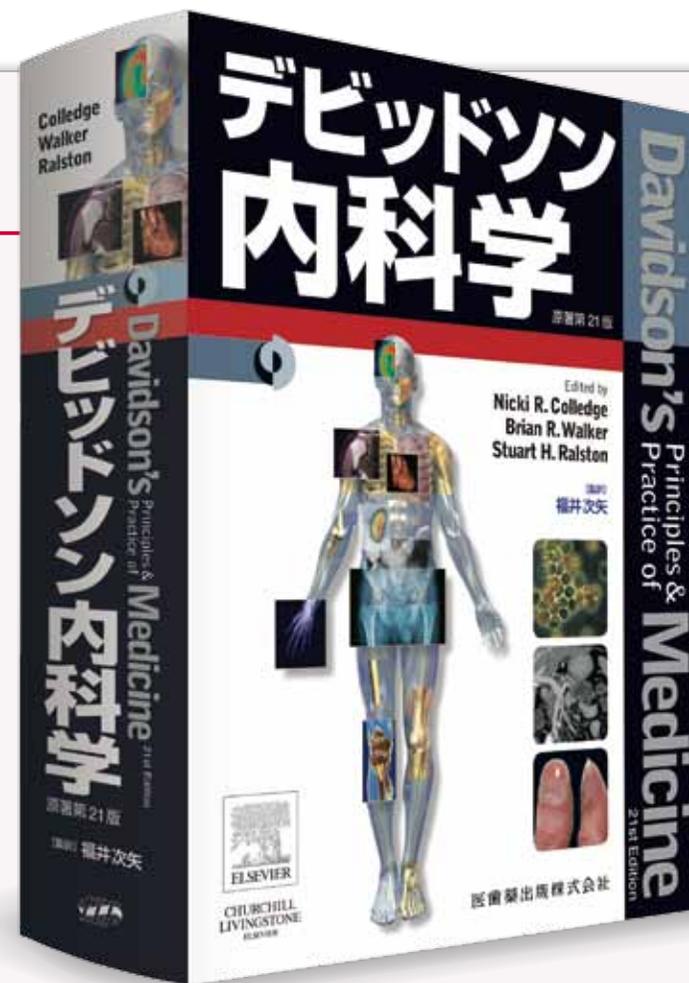
世界で多くの医学生や臨床家に支持され、英国では最も権威ある内科学書として愛読され続けてきた『Davidson's Principles & Practice of Medicine (デビッドソン内科学)』は、英国近代医学の歴史において真に優れた教育者として知られる、スタンレー・デビッドソン博士の講義ノートから誕生しました。

卓越した医師であり、熟練の研究者であり、教育者としても知られたデビッドソン博士は、スリランカに生まれ、ケンブリッジのトリニティ・カレッジ医学部から学業をスタートさせました。しかし、第一次世界大戦により学業は中断。歩兵連隊に召集された彼はフランスで重傷を負い、2年間近く療養に努めることになりました。エディンバラ大学で学業を再開したものの、重傷を負ったこと、また戦時中に多くの命が失われるのを目の当たりに

したことは、以後の人生観に大きな影響を及ぼしたといわれます。

1930年、デビッドソン博士はアバディーン大学の内科学教授に就任しましたが、これは世界で最初の専任内科学主任教授職のひとつであり、スコットランド初でもありました。その後、1938年にはエディンバラ大学の内科主任教授に就任、1959年に引退するまで、血液学をはじめ、リウマチ性疾患や栄養学に関する重要な研究に取り組んだほか、エディンバラ地区の病院や教育施設の近代化や拡大に尽力し、また、優れた教育者としても名声を博しました。

デビッドソン博士は、とりわけ臨床教育に優れた才能を発揮して、内科学の系統講義のほとんどは彼の手で行われていました。タイプライターで書かれた彼の講義ノートは、要点が強調され、当時



エディンバラ大学に飾られている肖像博士の名を冠した Davidson Room に誇り高く掲げられている

のどの教科書よりもはるかに優れた内容であったといわれています。

1940年代後半、この講義ノートを基に、体系的な一冊の本にまとめるべく構想が練られました。

1952年に発行された『Davidson's Principles & Practice of Medicine』の初版は、内容の明快さや統一された記述が傑作といわれ、適正なサイズと手頃な価格でありながらも包括的かつ先進的な

内容であり、診療の必須要素を読者に提供しうる内容でした。

デビッドソン博士は1971年に第10版を出版した後に編集を退きましたが、その後も編集チームが世界中の50名以上の著者の協力を得ながら、医学の進展に遅れないよう改訂を続けています。

長年にわたり多くの読者に愛読されながら20回以上版を重ねることで、体裁や説明に多くの変

更はあるものの、デビッドソン博士の掲げた独創的な構想や方針は当時のまま維持されてきました。『Davidson's Principles & Practice of Medicine』は、初版から半世紀以上を経た現在も、世界中の医学生、医師に評価されるテキストであり続けているのです。



現在の編集チーム。世界中の著者の協力を得て、最新のエビデンスを提供している



監訳者・福井次矢先生が語る『デビッドソン内科学』の魅力

『デビッドソン内科学 原著第21版』の監訳者である福井次矢先生（聖路加国際病院 院長／聖路加国際大学 理事長）に編集部がインタビューを行い、本書の魅力や特長、そして医学生や臨床家にどのように活用してもらいたいかを語っていただいた。

福井 次矢 Fukui Tsuguya
聖路加国際病院 院長／
聖路加国際大学 理事長

1976年京都大学医学部卒業。1984年ハーバード大学公衆衛生大学院修了。1992年佐賀医科大学総合診療部教授。1994年京都大学医学部附属病院総合診療部教授。1996年京都大学大学院医学研究科臨床疫学教授。2004年京都大学名誉教授。2005年聖路加国際病院院長に就任。2014年聖路加国際大学理事長を併任。

無駄を削ぎ落として、診療へ直結するエビデンス

医歯薬出版編集部（以下、編集部） 監訳者である先生が初めて原著をご覧になったとき、本書の第一印象ではどうお感じになりましたか。

福井次矢先生（以下、福井） 原書を一読して、とてもプラクティカルな内科学書だと思いました。内科学を細分化して狭い範囲を突めていく、そうした視点で知識を提供する本が多いなか、本書は「内科全般を扱う臨床医の視点」から書かれている点が優れて

いると感じて、監訳を決意いたしました。

原著者のデビッドソン卿は、かつてエディンバラ大学の教授として内科学の系統講義を行っていたのですが、本書はその講義ノートをベースに執筆された内容なので、まとまりが非常に良いテキストです。またエディンバラ大学というのは、EBM発祥の大学ともいわれているほどで、数値を使い定量的に医療の効果を測定・判定する、そうした内科診療の有効性に対する姿勢が、本書のバックグラウンドに強く根付いています。エビデンスに基づいた医療、その基本的な考え方がしっかりと反映されたテキストといえる

でしょう。

編集部 内科学書には多くの優れた類書がありますが、それと比較して本書の特長や魅力はどこにあるのでしょうか。

福井 一読すればわかりますが、ほかの世界的な内科学書と比べると、本書はかなりコンパクトです。医学生であれ、臨床の医師であれ、系統的に学ぼうとするとき、全て読みきることのできるボリュームや内容となっています。

サイエンスの観点からは重要な知識だとしても、実際の臨床ではまだ役立つかわからない知識や、臨床に直結しない事柄についてはかなり削ぎ落とし、簡潔かつスマートな内容にまとめてあります。ですから、診療に即座に、直接役立つ、そうしたエビデンスにフォーカスを合わせた記述になっており、その意味で、研修医はもちろん、診療を実際に行っている先生方にとっても非常に読みやすい内容だと思います。そこが、本書の最大の魅力でしょう。

診察法から展開させる、実践的かつ斬新なスタイル

編集部 各章で疾患を解説する際にも、実践を重視した本書の特長が表れているように思います。

福井 通常の内科学書では、ある疾患について解説する場合、基礎からはじまって、最後に診療へと話が展開していきますが、本書の場合、最初に診察方法や診察の重要事項から解説して、次に機能解剖学や生理学、病理や検査の説明へと展開していきます。

患者さんを診るとき、どのような視点でインタビューするべきか、また身体所見をどのように診たらいいのか、そこから話が展開していくので、日常の診療に沿った順番で読んでいくことができる、大変使い勝

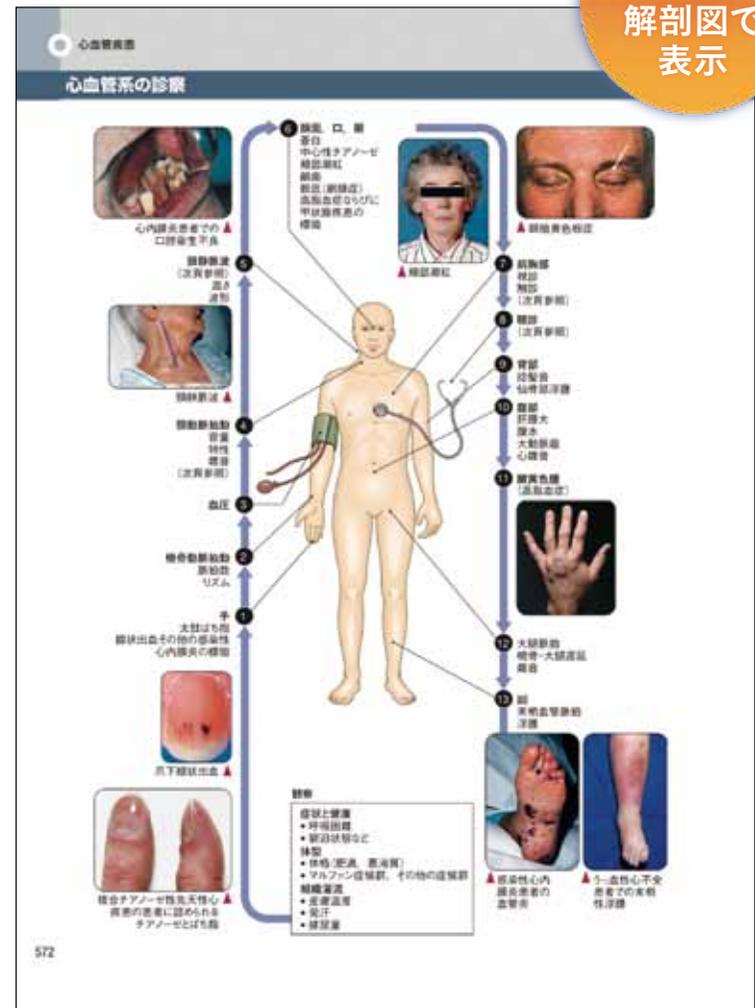
手の良い構成になっています。つまり、知りたいことに簡単にアクセスできる構成になっていると思います。

編集部 実践的ということは、医学生だけでなく、臨床家にも活用いただけるということでしょうか。

福井 2017年度からはじまる新しい専門医制度のなかで「総合診療専門医」が新設されます。当然、広い領域における内科学の知識や技能が求められることとなりますので、総合診療専門医をめざす方、総合診療を実践しようという方に最適の内容です。

総合診療医に第一に要求される能力は、病名が定まっておらず、どの臓器の病気かもわからない時点で、患者さんの問題を適切に仕分けすることができるかどうかです。自身の専門に偏らず、あらゆる臓器、あらゆる疾患を検討するという、ニュートラル

診察
ステップを
解剖図で
表示



な視点を持たなくてはいけない立場なので、質の高い診断能力が求められるわけです。

そうした総合診療専門医をめざす方には、臨床のコアとなる実践的な知識として、この『デビッドソン内科学』を学んでいただくことが最も役立つのではないかと、その意味で本書は「総合診療のコア」を最も有効にまとめたテキストだと思います。

本気で勉強したい人には、 かならず一冊読み通せるボリューム

編集部 発行にあたっては、聖路加国際病院の先生100名近くにご協力いただきました。その意味でも、総合的かつ網羅的な視点で翻訳されていると思います。

福井 足かけ2年、私自身も翻訳をしながら非常に勉強したというのが事実です。このような機会がなければ、分子遺伝学的な側面から感染症の問題を考えたり、日本でみることのない稀な病気の記述についてまで学ぶことはなかったでしょう。100名近いスタッフの力を借りて、ていねいに一字一句翻訳することに時間を費やしました。

また、本書は International Advisory Board として各国の先生方が名前を連ねており、長い時間をか

けて収集した国際的な視点や知識が盛り込まれています。インターナショナルな視点からも書かれたテキストといえるでしょうね。

編集部 内容の素晴らしさやコンパクトさだけでなく、わかりやすさ、読みやすさも際立つ本だと感じますが、いかがでしょうか。

福井 本書は原著21版の翻訳ですが、ここまで版を重ねる中で見せ方や読ませ方もブラッシュアップされており、とてもカラフルで読みやすいつくりになっています。イラスト、図表、フローチャート、写真など、類書と比べても非常にクオリティが高いと思います。

また、さまざまなコラムが充実しており、とくにエビデンスについてのコラムは随所にタイミングよく登場してきます。本当に読みやすいテキストだと思いますね。

編集部 研修医や臨床家にも役立つことを話していただきましたが、医学生の方にはどのように活用いただけるのでしょうか。

福井 本書は全28章、計1,464ページですから、一生懸命勉強する学生にとっては、卒業までに一冊丸ごと十分に読みきれぬボリュームです。学生はいろいろな診療科をローテーションしますが、その際、関連する章をまとめて読むのに適したボリュームでま

とまっていますから、ぜひそのような使い方をしてほしいと思います。

私自身、学生の頃に内科学書を一冊読破した経験がありますが、それは後々まで大変に役立っています。版を重ねてボリュームが増える内科学書が多いなか、学生にはそうした大著を読み通すのはハードルが高いかもしれませんが、『デビッドソン内科学』なら本気で勉強すればかならず一冊読み通せるはずですよ。

編集部 最後に、本書を購入してみようと考えている方、すでに購入された方へメッセージをお願いします。

福井 本書の使い方は2つあると思います。ひとつは、ニーズを感じたときに開いて、自分の知りたい部分を読む、という使い方。臨床に適した実践的かつコンパクトな内容なので、臨床家の方にも十分に活用いただけると思います。

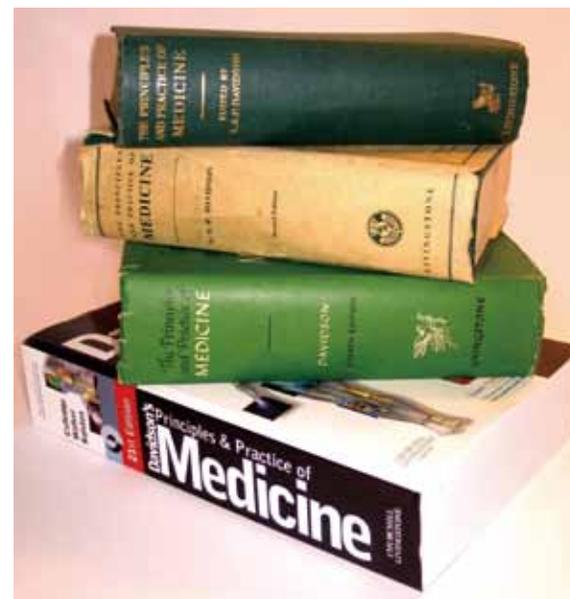
もうひとつは、内科学を学ぶ学生や、総合診療専門医をめざす方に、網羅的に勉強するために丸ごと一冊を読破する、という使い方。

臨床で活用する際には、カラフルかつコンパクト、必要なエビデンスと最新の情報を調べることができ、通読して学ぶことにも可能なボリュームでまとめられています。臨床に携わる方には、必要な

きに必要とところだけ、本気で勉強する方には、その意気込みに応えられる、そんな一冊だと思います。ぜひ一読いただければ幸いです。



『デビッドソン内科学』は「総合診療のコア」を最も有効にまとめた一冊です



初版から半世紀、世界で支持され20回以上版を重ねながらも、本書の独自の構想は変わらず受け継がれている

**診断・治療のみならず
疾患の病態生理を
詳細に解説した、
論理的な
診療ガイド**

**診察の重要要素を
詳細に
記述**

EBM 表 18-58 狭心症に対する動脈形成術と冠状動脈ステント

「単純」カテーテル形成術に比べて、冠状動脈内ステントでは再狭窄率が低く（例：17%対40%）、狭心症再発率も低く（19%対30%）、急性期および長期的な臨床・画像上の成績が、薬物療法を用いることで再狭窄率が（10%以下）。

• Sessler C, et al. BMJ 2008 ; 337 : a1331.

詳細情報 : www.nice.org.uk

EBM
コラムで
最新の
エビデンスを
紹介



デビッドソン内科学

原著 第21版

Davidson's Principles & Practice of Medicine

Nicki R. Colledge, 他 著
福井 次矢 (聖路加国際病院 院長 /
聖路加国際大学 理事長) 監訳

B5 判変 1,464 頁 カラー
定価 (本体 20,000 円 + 税)
ISBN978-4-263-73159-8

主な目次

第 1 部 内科診療の基本

- 1 章 適正な医療
- 2 章 治療学と適正処方
- 3 章 疾患における分子的・遺伝的因子
- 4 章 疾病の免疫学的側面
- 5 章 疾患における環境および栄養要因
- 6 章 感染症の基本原則
- 7 章 老化と疾患

第 2 部 内科診療の実践

- 8 章 重篤疾患
- 9 章 中毒
- 10 章 内科領域の精神医学
- 11 章 腫瘍学
- 12 章 疼痛マネジメントと緩和ケア
- 13 章 感染症
- 14 章 HIV 感染と AIDS
- 15 章 性行為感染症
- 16 章 臨床生化学と代謝
- 17 章 腎・尿路系疾患
- 18 章 心血管疾患
- 19 章 呼吸器疾患
- 20 章 内分泌疾患
- 21 章 糖尿病
- 22 章 消化管と膵の疾患
- 23 章 肝・胆道系疾患
- 24 章 血液疾患
- 25 章 筋骨格系疾患
- 26 章 神経内科疾患
- 27 章 皮膚疾患
- 28 章 検査基準値

● ご用命はぜひ当店へ

取扱店

ISH 医歯薬出版株式会社

〒113-8612 東京都文京区本駒込 1-7-10
TEL03-5395-7610 FAX03-5395-7611

● 弊社の全出版物の情報はホームページでご覧いただけます。

<http://www.ishiyaku.co.jp/>